

# 沖縄より守りたかった 国体

## 松代大本営が語るもの

1945年の8月5日まで行われていた沖縄戦。その間、本土では沖縄に援軍を送らず、長野県松代町で松代大本営地下壕を造っていた。その地下壕は、天皇やその親族の避難所として、1944年に建設を始めていた。しかし、総延長10キロ、進捗度75%の段階で沖縄戦に敗北し、工事を中断。そのままでも残されている。

松代が選ばれた理由は、

本州の陸地の最も幅の広いところであり、近くに飛行場がある。固い岩盤で掘削に適し、10トン爆弾にも耐えられる。山に囲まれていて、地下工事をするのに十分な面積を持ち、広い平野がある。

長野県人は、心が素朴で秘密が守れる。信州は神州に通じ、品格がある。の5つが挙げられている。

いる。

松代大本営の工事は、ダイナマイトで発破して、崩した石屑をトロッコなどを使った人海戦術で運び出す、という方法で行われた。

総計で、朝鮮人約7000人と、日本人約3000人が12時間交代で工事にあたった。最盛期は1945年4月頃には、日本人・朝鮮人1万人が

1935年頃、皇居には鋼鉄庫の防空壕（地下金庫室）が造られた。しかし、内部が広く大型爆弾にも耐えられないことから、宮内省工匠寮の設計で、吹上御所近くに新たに防空壕が完成するまでの間、天皇と皇后は空襲警報のたびに、宝剣神璽（三種の神器のうちの剣と印）と共に、防空室に避難していた。

作業にあたり、延べ人数は、合計約61万6000人とされている。建設作業は、徴用された日本人労働者や朝鮮半島から動員された朝鮮人労働者が中心となった。この松代大本営地下壕建設にあたり、生き延びた朝鮮人、キム・セフアさんの作品「キムの十字架」は本やDVDにもなっている。



松代大本営の地下壕

### 松代大本営に関わる年表

1937年11月	大本営令制定
44年1月	大本営移転案を達言
5月	移転計画を採用決定
7月	計画立案却下、再計画案作成
8月	移転計画書作成。陸軍大臣より東部軍に着工命令
10月	工事命令。朝鮮人労働者の入居開始
11月	最初の発破
1945年6月	全地下壕の使用目的概要を提示
7月	大本営発送の荷物が松代駅に到着
8月	敗戦

## 負の遺産を永久に残せ

松代大本営の保存運動が始まったのは、1985年。当時の長野市私立篠ノ井旭高校（現・長野俊英高校）の生徒と先生によって始められた。この年、修学旅行で沖縄を訪れた同校の生徒たちは、沖縄戦で実際に野戦病院として使われた、ガラクタを見学した。

ガラクタの中はジメジメしていて、暗闇の中には、壕の中で使われていた物、壕の中で亡くなった人々の遺品、そして人の骨までもがたくさん散らばっていた。それは野戦病院解散時に当時の日本軍によって薬物で殺され、足や体を負傷して歩けなくなっていた人たちの遺骨であり、高校生にとっても大きな衝撃をあたえた。「骨がない骨があった。人間

ものだが思わず目をそむけなくなった」（修学旅行感想文より）  
長野に帰ってきた生徒たちは、長野県にも沖縄で見たとような戦争を伝えるモノコメントはないだろうかと探し、沖縄戦の最中に掘られていた地元松代大本営地下壕の存在を知る。そして高校生たちは1985年松代大本営について調査を始めた。最初の調査では壕の入り口は竹や木でふさがれ、一目ではどこにも入り口があるか分らない程になっていた。生徒たちは真つ暗な壕の中を調べた。

高校生の活動を応援しようとして、1986年、市民による「松代大本営の保存を進める会」が結成された。4年後の1990年、保存・公開が実現した。一般公開が始まり、多くの問題が浮かび上がった。「平和教育」の目的で見学に来た人々に案内や説明板も無い



朝鮮の人たちの慰霊碑

「松代の保存を進める会」の幹事で、田川高等学校（塩尻市）教諭の幅国洋さんに、松代大本営や沖縄戦についての僕たちの問いに答えていただきました。

Q なぜこの会に入ると思ったのですか？  
A 北海道で教師をしていたとき、ある先生に誘われて入ることになった。そこからこの松代について、深く考えていくようになった。地下壕を見て、現物が持つ重みを感じ取った。本当の意味で、日本を平和にしていきたいと思った。

Q 沖縄と松代の関係についてどう思いますか？  
A 松代大本営は、持っている嬉しくない記念品だが、何のための沖縄戦だったか考えさせる「負のモノコメント」と思う。戦争当時の日本は、戦局が危うくなり、政府の中枢を長野の松代にしようとした。そうまでして戦争を続けようとしたのは、国民よりも国体（天皇中心の国のあり方）を守るため。もしアメリカ軍が本土にも上陸したとしたら、沖縄のようにならなければならぬ。深く考えていきたいと思えました。

## 長野で戦争を考える

「松代の保存を進める会」の活動を、もっとより多くの人に分かち合ってもらいたい。私たちが、松代大本営とはいったい何だったのか。深く考えていきたいと思えました。

沖縄の壕やガマは、暗くしてじめじめして崩れそうな所だ。造りが違い、安全な松代がうらやましい」と話してくれた。また、「普天間基地に沖縄の良い土地が取られているから、産業も何も発展しない貧乏な県になってしまう。沖縄戦の日から沖縄は何も変わっていない。なんのために戦争を引き延ばしたんだろ」とも語ってくれた。

戦争が起きた理由をあきらかにしていることとするのは難しい。しかしなんとすることも戦争のことも、次の世代へ途切れさせないようにならなければならぬ。そのためには、この「松代の保存を進める会」